

☆☆総合診療専門研修プログラム 研修目標及び研修の場		☆☆総合診療専門研修プログラムでの研修設定 ◎:主たる研修の場 ○:従たる研修の場 推奨 ◎:主たる研修の場、○:研修可能な場)											
		総合診療専門研修Ⅰ (診療所/中小病院)		総合診療専門研修Ⅱ (病院総合診療部門)		内科		小児科		救急科		他の領域別研修	
I. 一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な診察及び検査・治療手技 以下に示す検査・治療手技のうち、※印の項目は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。		設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨
(ア) 身体診察													
※①小児の一般的身体診察及び乳幼児の発達スクリーニング診察を実施できる。		◎	◎	◎					◎				
※②成人患者への身体診察(直腸、前立腺、陰茎、精巣、鼠径、乳房、筋骨格系、神経系、皮膚を含む)を実施できる		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎		○
※③高齢患者への高齢者機能評価を目的とした身体診察(歩行機能、転倒・骨折リスク評価など)や認知機能検査(HDS-R、MMSEなど)を実施できる。		◎	◎	◎	◎	○	○						
※④耳鏡・鼻鏡・眼底鏡による診察を実施できる。		◎	◎	◎	◎								○
※⑤死亡診断を実施し、死亡診断書を作成できる。		◎	◎	◎	◎	○	○				○		
⑥死体検案を警察担当者とともに実施し、死体検案書を作成できる。		◎	◎	○	○						◎		
(イ) 実施すべき手技													
※①各種の採血法(静脈血・動脈血)、簡易機器による血液検査・簡易血糖測定・簡易凝固能検査		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※②採尿法(導尿法を含む)		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※③注射法(皮内・皮下・筋肉・静脈内・点滴・成人及び小児静脈確保法、中心静脈確保法)		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※④穿刺法(腰椎・膝関節・肩関節・胸腔・腹腔・骨髄を含む)		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
(ウ) 検査の適応の判断と結果の解釈が必要な検査													
※①単純X線検査(胸部・腹部・KUB・骨格系を中心に)		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎		
※②心電図検査・ホルター心電図検査・負荷心電図検査		◎	◎	◎	◎	◎	○			◎	○		
※③超音波検査(腹部・表在・心臓、下肢静脈)		◎	◎	◎	◎	◎	○			◎	○		
※④生体標本(喀痰、尿、皮膚等)に対する顕微鏡的診断		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○		
※⑤呼吸機能検査		◎	◎	◎	◎	◎	○						
※⑥オージオメトリーによる聴力評価及び視力検査表による視力評価		◎	◎									◎	○
⑦消化管内視鏡(上部)		○	○	○	○	○	◎						
⑧消化管内視鏡(下部)		○	○	○	○	○	◎						
⑨造影検査(胃透視、注腸透視、DIP)		○	○	○	○	○	◎						
※⑩頭・頸・胸部単純CT、腹部単純・造影CT		○		◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎		
⑪頭部MRI/MRA				◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎		
(エ) 救急処置													
※①新生児、幼児、小児の心肺蘇生法(PALS)		○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎		
※②成人心肺蘇生法(ICLSまたはACLS)または内科救急・ICLS講習会(JMECC)		○	○	○	○	○	○			◎	◎		
※③外傷救急(JATEC)										◎	◎		
(オ) 薬物治療													
※①使用頻度の多い薬剤の副作用・相互作用・形状・薬価・保険適応を理解して処方することができる。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○		
※②適切な処方箋を記載し発行できる。		◎	◎	◎	◎	◎	◎						
※③処方、調剤方法の工夫ができる。		◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○		
※④調剤薬局との連携ができる。		◎	◎	○	○	○	○	○	○				
⑤麻薬管理ができる。		◎	◎	◎	◎	◎	○						
(カ) 治療法													
※①簡単な切開・異物摘出・ドレナージ		◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※②止血・縫合法及び閉鎖療法		◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※③簡単な脱臼の整復		◎	◎	○	○			○	○	◎	◎	○	○
※④局所麻酔(手指のブロック注射を含む)		◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※⑤トリガーポイント注射		◎	◎	○	○							○	○
※⑥関節注射(膝関節・肩関節等)		◎	◎	○	○							○	○
※⑦静脈ルート確保および輸液管理(IVHを含む)		◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎		
※⑧経鼻胃管及びイレウス管の挿入と管理		◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		
※⑨胃瘻カテーテルの交換と管理		◎	◎	○	○	○	○						
※⑩導尿及び尿道留置カテーテル・膀胱瘻カテーテルの留置及び交換		◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		
※⑪褥瘡に対する被覆治療及びデブリードマン		◎	◎	◎	◎							○	○
※⑫在宅酸素療法の導入と管理		◎	◎	○	○	○	○						
※⑬人工呼吸器の導入と管理		○	○	○	○	○	○			◎	◎		
⑭輸血法(血液型・交差適合試験の判定や在宅輸血のガイドラインを含む)		○	○	○	○	○	○						
⑮各種ブロック注射(仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等)		○	○	○	○							○	○
⑯小手術(局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法)		◎	○	○	○					◎	◎		

※⑰包帯・テーピング・副木・ギプス等による固定法	○	◎	○	○					◎	◎	○	○
⑱穿孔法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺等）		○		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※⑲鼻出血の一時的止血	◎	◎							◎	◎	○	○
※⑳耳垢除去、外耳道異物除去	◎	◎					◎	◎			○	○
㉑咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）	○	○							◎	◎	◎	◎
㉒睫毛抜去	◎	◎									◎	◎
Ⅱ. 一般的な症候への適切な対応と問題解決 以下に示す症候すべてにおいて、臨床推論に基づく鑑別診断および、初期対応（他の専門医へのコンサルテーションを含む）を適切に実施できる。	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨
ショック	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
急性中毒	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
意識障害	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
疲労・全身倦怠感	◎	◎	◎	◎	○	○						
心肺停止	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
呼吸困難	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
身体機能の低下	◎	◎	○	○								
不眠	◎	◎	○	○								
食欲不振	◎	◎	○	○	○	○						
体重減少・るいそう	◎	◎	○	○	○	○						
体重増加・肥満	◎	◎	◎	◎								
浮腫	◎	◎	○	○	○	○						
リンパ節腫脹	◎	◎	○	○	○	○	○	○				
発疹	◎	◎	○	○			○	○	○	○	○	○
黄疸	○	○	○	○	◎	◎						
発熱	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
認知能の障害	◎	◎	◎	◎	○	○						
頭痛	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎		
めまい	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎		
失神	○	○	○	○	○	○			◎	◎		
言語障害	○	○	◎	◎								
けいれん発作	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎		
視力障害・視野狭窄	◎	◎							○	○	○	○
目の充血	◎	◎					○	○			○	○
聴力障害・耳痛	◎	◎					○	○			○	○
鼻漏・鼻閉	◎	◎					○	○			○	○
鼻出血	◎	◎							◎	◎	○	○
さ声	◎	◎									○	○
胸痛	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎		
動悸	◎	◎	◎	◎	○	○			◎	◎		
咳・痰	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎		
咽頭痛	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎		
誤嚥	◎	◎	○	○	○	○			○	○	○	○
誤飲	○	○					◎	◎	◎	◎		
嚥下困難	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○	○	○
吐血・下血	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎		
嘔気・嘔吐	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎		
胸やけ	◎	◎	◎	◎	○	○			○	○		
腹痛	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎		
便通異常	◎	◎	○	○	○	○	○	○				
肛門・会陰部痛	◎	◎	○	○	○	○						
熱傷	◎	◎	○	○			○	○	◎	◎	○	○
外傷	◎	◎	◎	◎							◎	◎
褥瘡	◎	◎	◎	○							○	○
背部痛	◎	◎	◎	○							○	○
腰痛	◎	◎	◎	○							○	○
関節痛	◎	◎	◎	○							○	○
歩行障害	◎	◎	◎	○							○	○
四肢のしびれ	◎	◎	◎	○							○	○
肉眼的血尿	◎	◎	◎	○							○	○
排尿障害（尿失禁・排尿困難）	◎	◎	◎	○							○	○
乏尿・尿閉	◎	◎	◎	○					○	○	○	○
多尿	◎	◎	◎	○							○	○
不安	◎	◎	◎	○							○	○
気分の障害（うつ）	◎	◎	◎	○							○	○
興奮									◎	◎	○	○
女性特有の訴え・症状	◎	◎	◎								○	○
妊婦の訴え・症状	○	○	○	○	○	○			○	○	◎	◎
成長・発達の障害	○	○					◎	◎				
Ⅲ 一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント 以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントができる。また、（ ）内は主たる疾患であるが、例示である。 ※印の疾患・病態は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。												
（1）血液・造血器・リンパ網内系疾患												
※[1]貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○		
[2]白血病					◎	◎						
[3]悪性リンパ腫			○		◎	◎						
[4]出血傾向・紫斑病			○	○	◎	◎			○	○		
（2）神経系疾患												
※[1]脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）	○	○	◎	◎					◎	◎		◎
※[2]脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）	○	○							◎	◎		◎
※[3]変性疾患（パーキンソン病）	○	○	○	○	◎	◎						
※[4]脳炎・髄膜炎			○	○	◎	◎	○	○	◎	◎		
※[5]一次性頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○				
（3）皮膚系疾患												
※[1]湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂質欠乏性皮膚炎）	◎	◎	○	○			◎	◎			◎	◎
※[2]蕁麻疹	◎	◎					◎	◎	○	○	◎	◎
※[3]薬疹	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎
※[4]皮膚感染症（伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、白癬症、カンジダ症、尋常性ざ瘡、感染性粉瘤、伝染性軟属腫、疥癬）	◎	◎	○	○			◎	◎			◎	◎
（4）運動器（筋骨格）系疾患												
※[1]骨折（脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、橈骨骨折）	○	○							◎	◎		◎
※[2]関節・靭帯の損傷及び障害（変形性関節症、捻挫、肘内障、腱板炎）	○	○							◎	◎		◎
※[3]骨粗鬆症	◎	◎	◎	○	○	○						◎

